

## 多胎妊娠分科会議事録

分科会長 大阪大学医学部産婦人科 倉智敬一

多胎妊娠分科会：昭和56年度第1回研究会

分科会長名：倉智敬一

日時：昭和56年7月14日（火）

場所：鉄道会館ルビーホール（東京都）

出席者：倉智敬一，青野敏博，木下勝之，五十嵐正雄，仲野良介，西望，一宮和夫，石丸忠之，馬場一雄，藤井裕，鈴木雅洲，古橋信晃，長池文康

議事録：

まず、鈴木班長の挨拶の後、倉智分科会長よりこれまでの研究の歩みの整理があり、本年度の活動方針につき討議の要請があった。それを受けて各大学より以下の計画説明があった。大阪大学からは昨年に引き続き卵胞発育のE<sub>2</sub>測定とさらに加えて超音波断層法によるモニターを行ない多胎妊娠発生機序について研究する旨表明があった。東京大学からは超音波による卵胞発育モニターおよび多胎妊娠時の早産未熟児の予防に関する検討をすることが表明された。群馬大学からは従来のHMG-HCG療法にさらにestradiol benzoateを加える療法の試みと、HMGそのものの精製による多胎妊娠防止の試みが表明された。和歌山医大からはrat卵胞発育におけるFSHの作用機序に関する研究に従事される旨表明された。東京医科歯科大学より尿中estrogenの簡易測定法と卵巣過剰刺激症候群の検討を行う旨発言があり、長崎大学よりestrogenの簡易測定法とHMG隔日投与法及び超音波による卵胞発育モニターの試みが表明された。日本大学からは来年小学校にあがる山下家の「5つ子」の成長・発育に関するまとめを行う旨表明された。終りに事務局の東北大学より会計報告書のまとめについて説明がなされた。次回昭和57年1月に第2回の研究会を開き研究の進行状況をまとめることを約して散会した。

多胎妊娠分科会：昭和56年度第2回研究会

分科会長：倉智敬一

日時：昭和57年1月23日

場所：新阪急ビル スカイルーム（大阪市）

出席者：倉智敬一，青野敏博，三宅侃，田坂慶一，木下勝之，岡井崇，北川浩明，五十嵐正雄，野村修一，山田清彦，仲野良介，佐々木謙司，中山崇，斎藤幹，一宮和夫，大原基弘，高橋滋，山辺徹，石丸忠之，森崎正幸，外西寿彦，鮫島浩，鈴木雅洲，古橋信晃，長池文康，

議事録

鈴木班長、倉智分科会長よりのあいさつがあり、以下の順序にて各大学より10分間の研究発表があり、活発な討論がなされた。

1. FSHによる卵胞発育の機序  
(和医大) 仲野良介ほか
2. 多胎妊娠予防の為のhMG精製  
(群大) 五十嵐正雄ほか
3. 薬理学的多胎予防法の基礎的検討  
(群大) 五十嵐正雄ほか
4. HMG-HCG療法における投与法の検討  
(長崎大) 山辺徹ほか
5. HMG-HCG治療時における尿中estrogen monitoring

- (東京医歯大) 齊藤幹ほか
6. 超音波断層法による卵胞発育モニター  
(大阪大) 倉智敬一ほか
  7. HMG-HCG 療法時の超音波断層法による卵胞成熟の monitoring  
(長崎大) 山辺徹ほか
  8. HMG-HCG 療法後の妊娠例の検討  
(東大) 木下勝之ほか
  9. 多胎妊娠経過中の入院安静の効果  
(東京医歯大) 齊藤幹ほか
  10.  $\beta_2$  - stimulant による多胎妊娠例の切迫早産の治療について  
(東大) 木下勝之ほか
  11. 徳之島の五つ子  
(鹿児島市立) 外西寿彦ほか
  12. 五つ子の追跡観察 (山下ベビーのその後)  
(日本大) 馬場一雄ほか

和医大からは rat での FSH の卵胞発育作用に対する clomiphene の抑制効果, 群大からは rat での indomethasin, aspirin, chlor trimeton による排卵数抑制効果と hMG の精製について, 東京医歯大より尿中エストロジェン簡易測定法による卵巣過剰刺激症候群の防止, 長崎大からは HMG 隔日投与による卵巣過剰刺激症候群の防止, 大阪大より HMG-HCG 治療中の超音波による複数卵胞発育の経日的観察と妊娠例における検討, 長崎大からは卵巣過剰刺激症候群の超音波モニターによる予測, 東大からは妊娠例における超音波検査の検討, 東京医歯大からは多胎妊娠経過中の入院安静の効果, 東大からは  $\beta_2$  - stimulants (ritodrine) の多胎妊娠における切迫流早産に対する効果, 鹿児島市立病院より徳之島の五つ子の出産とその経過, 日大より山下家の五つ子の成長発育に関するまとめが発表され, 多くの成果を得るに至った。続いて幹事校東北大より事務連絡に関する説明が行なわれ散会した。